

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01527

研究課題名（和文）福祉政策を支えるウェルビーイング思想の新たな探求

研究課題名（英文）An Exploration of the Well-being Philosophy for Welfare Policies

研究代表者

橋本 努（Hashimoto, Tsutomu）

北海道大学・経済学研究院・教授

研究者番号：40281779

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の主要な成果は二冊の単著の刊行である。一方の単著『自由原理』では、福祉国家の新たな理念として自生的な善き生（ウェルビーイング）の理論を展開した。他方の単著 Liberalism and the Philosophy of Economics では、その背後にある「自生化主義」などの独自の思想理念を英語で発信した。いずれも人間が自分自身のウェルビーイングについて無知である現状から出発して、いかなる善き生と善き社会の構想を獲得できるかについての試論である。この他に関連する実績として、単著『消費ミニマルリズムの倫理と脱資本主義の精神』では消費スタイルの観点から新たにウェルビーイングを捉えなおした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、国や地域で用いられている「幸福度（ウェルビーイング）指標」について、一定の規範的な指針を示した点にある。現在、さまざまな幸福度指標がさまざまな国と地域で用いられているが、それらの指標は、どのように評価されるべきなのか。各国の間、あるいは各地域の間で、専門家たちによる相互レビューが求められている。では指標をどのような観点からどのように評価すべきなのか。本研究は、人間は自分のウェルビーイングについて無知であるという前提から出発して、なおウェルビーイングを増大させることができるという想定の下に、「自生的な善き生の理論」を構築した。これは相互レビューのための価値尺度を提供する。

研究成果の概要（英文）：The major achievement of this study is the publication of two monographs. One monograph, "Principles of Liberalism," developed a theory of spontaneous good life (well-being) as a new philosophy of the welfare state. In the other monograph, "Liberalism and the Philosophy of Economics," I transmitted in English my original philosophical ideas, such as the "spontenietism" that lies behind it. Both are testimonials on how human beings can acquire the concept of a good life and a good society by starting from the current state of ignorance about their own well-being. As another related achievement, in my monograph "The Ethics of Consumer Minimalism and the Spirit of De-capitalism," I recaptured the idea of well-being from the perspective of consumption styles.

研究分野：経済思想

キーワード：幸福 ウェルビーイング 福祉 経済思想 地域 指標

### 1. 研究開始当初の背景

ウェルビーイングの研究は、現代経済思想の中心テーマとして台頭してきた。背景には、幸福経済学の勃興、現代功利主義の新展開、医学・教育・福祉などの諸分野における調査研究の蓄積、行動経済学や実験経済学や社会心理学における新しい実験、GDPを超える諸指標の提案、自治体における幸福度指標の独自作成などの動きがある。ウェルビーイング論はこの分野は社会科学の一大領域を形成するようになった。

1972年にブータンの国王が提唱した「国民総幸福量」指標を受けて、国連総会が2011年に「幸福」理念をグローバルな目標にするという決議を採択すると、経済協力開発機構(OECD)も同年に「よりよい生活(Better Life)指標」を発表、イギリスでは国家統計庁が2012年に市民参加型の熟議を経て「国民ウェルビーイング指標」を開発、フランスでは2008年にサルコジ大統領が「経済パフォーマンスと社会プログレスの測定に関する委員会」を立ち上げ、J・ステイグリッツやA・センなどを招いて独自の総合指標を構築するなどの動きが続いた。この他イギリスのNGOによる「地球幸福度指標」や、世界価値観調査における「幸福」の調査、オックスフォード大学における「多元的貧困指標」やプリンストン大学における「国内総生産を超える指標(beyond GDP)」の提案など、興味深い動きがある。日本でも2012年の段階で22の自治体が幸福度の指標を独自に作成、コミュニティ・レベルでの関心が高まっている。WikiprogressのホームページにはGDPを超える諸指標のデータベースが構築されており、454の指標化プロジェクトが紹介されているが、現在、地域・国家・世界のさまざまなレベルで、新たな指標による社会統治力強化の動きがある。

### 2. 研究の目的

経済思想はこれまで、「効用」概念を原理的に批判してきたものの、ウェルビーイングの理論を積極的に示してこなかった。社会的に採用すべきウェルビーイング指標は、民主的討議の積み上げによって構築すべきであるとしても、その民主的議論が成熟するためには、ウェルビーイングの原理的検討が不可欠である。この課題に応じるべく、本研究は、三つの研究目的を立てた。すなわち、(a)学説史的検討と概念分析、(b)福祉政策を体系的に導く規範理論の構築、(c)諸指標の検討と新たな指標の提案、である。

規範理論の観点からみると、「ウェルビーイング」の探求は意義深い問題を提起する。リベラリズムはこれまでウェルビーイングを私的領域の問題とみなしてきたにすぎない。コミュニタリアニズムは公共善を求める一方、各人の私的なウェルビーイングに関心を示したわけではない。平等主義やリバタリアニズムも財の分配理念を問題にする一方、この問題を論じていない。ウェルビーイングの指標化は、既存の規範理論の盲点である。幸福の指標化は、GDPの成長よりも主観的な幸福を求めようとする民衆の要請を受けて、諸政策を導く規範的準拠点を提供しつつある。主要な問題は、ウェルビーイングの概念が、原理的・政策的な次元においてどのような規範的含意をもつのかである。

### 3. 研究の方法

本研究では、ウェルビーイング概念における諸特徴、すなわち「自律」「処世術的卓越」「メタ選好」「第三者視点」などを体系的に明らかにする。かかる基礎研究を土台として、本研究はウェルビーイングの規範理論の構築へ向かう。「公共善」でも「正義」でも「効用」でもない、別の政策指針を体系的に示すことを目指す。参考になるのは、カーネマン/トヴェルスキーの心理学や、セイラー/サーンステインの行動経済学・法哲学である。後者は前者の知見を取り入れて、あらたにリバタリアン・パターンリズムの規範理論を提示した。本研究は同理論に対する批判的検討を踏まえて、新たにウェルビーイング概念を軸にした規範理論の構築を目指す。根本的な問題は、温情的な政府介入と福祉政策を正当化する際の基準と理念が、どのような主体像の陶冶を前提し、どのようなウェルビーイングの理解を前提とするのかである。リバタリアン・パターンリズムはこの点で複数の理念を許容している。本研究は人間の「器(capacity)」という理念に注目し、この問題に新たな視点を提供したい。一つの方法的視角は、ハイエクの自生的秩序論を人格論へ応用することである。本研究では人間は自らのウェルビーイングについて根本的に無知であるという人間像から出発したい。他方で私たちは、自生的な仕方でも獲得した自己の生を回顧的な仕方でも振り返ることが可能である。本研究では、幸福感や満足感の現在性ではなく「回顧された生」の評価視点が事後的にウェルビーイングを構成するという仮説を立て、この仮説の哲学的基礎として「自生的な善き生(自ずからなる生)」の理論を展開する。

「自生的な善き生」の理論に基づく「ウェルビーイング」論の体系的構築は、GDPを超える諸指標に一定の批判と評価を与えらるるものでなければならない。最後にこの課題に応じるべく、同研究分野における以下の諸問題に解決を与えたい。(i)倫理学者フェルドマンとケインズの伝記作家スキデルスキーのあいだで論争される「善き生」の解釈(態度的快樂の単純集計 vs 物語的生)、(ii)イースタリンの法則とそれに対する異議(追加所得が幸福をマイナスにする閾値の証明不可能性、先進諸国の平均幸福度の優位性)、(iii)先進諸国においてみられる高齢者の幸福化傾向、(iv)幸福者の所得低下傾向というパラドックス、などである。こうした諸問題への応

答は、諸指標を評価する上で確固たる価値観点を与えるであろう。

本研究はさらに新たな指標を提案する。諸指標を検討して、日本にふさわしい指標を考案したい。

#### 4. 研究成果

自己の善き生について無知な人間は、アンケート調査で幸福やウェルビーイングについて尋ねられたとき、自分の幸福やウェルビーイングについて「まあまあ(fair)」と答える可能性がある。日本人や韓国人の場合、このように回答する人の割合が多い。結果として日本と韓国の幸福度は、先進諸国の中でも低迷している。「まあまあ」と答える態度は、はっきりしない態度ではあるが、この回答は、善き生について分からないという謙虚な態度の現れでもある。幸福度指標を使って各国のパフォーマンスを測る場合、この「まあまあ」という回答も十分によい回答として扱う余地がある。

自分にとって何が「善き生」であるか分からないとしても、善き生が自生的に育まれるような、豊かな土壌づくりをすることができる。「自生的な善き生の理論」は、政府や自治体に対して、そのような土壌づくりを積極的に求めることができる。例えば私たちは、自分にとって何が善き生なのかあまりよく分からなくても、孫世代への教育投資を通じて、孫世代の人たちの善き生が自生的に育まれるように配慮することができる。福祉国家は、そのような期待に応える政策を打ち出すことができる。

自生的な善き生の理論は、即座の効用よりも、回顧された効用（記憶された効用）を重視する。功利主義が直面する根本問題は、効用を測る尺度として、なにを用いるべきかという問題である。現在の主観的な効用を単位とするのか、それともこの一週間を振り返った場合の効用（回顧された効用）を単位とするのか。自生的な善き生の理論は、善き生というものが事前には分からず、後から分かるものだという理解に基づいて、「回顧された効用」を重視する。

自生的な善き生の理論は、自分がまだ知らない自分のポテンシャルに気づくことが重要であると考えられる。自分のポテンシャルは、自分がこれまでとは違う文脈に置かれたときに気づくことがある。また自分のポテンシャルは、自分の心に十分な「溜め（くつろぎと余裕）」があるときに気づくことがある。それゆえ自生的な善き生の理論は、他者によって、自分の生が十分にもてなされることを重視する。この発想に基づいて、福祉国家は各人が異郷でくつろげるような社会の仕組みを提供することがふさわしい。この「もてなされた生」の理想は、観光産業の役割についても、その福祉面での意義を認めることになる。

以上をまとめると、自生的な善き生の理論は、幸福度指標の使い方、善き生を育むための土壌づくり（制度支援）、回顧された効用の重視、もてなされた生の支援、という四つの要素から成り立つ。ハイエクの自生的秩序論は、政府の介入に消極的だが、自生的な善き生の理論は、国家が善き生を促進するために、さまざまな介入の余地があることを認める。以上の理論が、本研究の中心的な成果である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 橋本努	4. 巻 85(12)
2. 論文標題 ウェルビーイングとナッジ政策 自律のオプション化について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 公衆衛生	6. 最初と最後の頁 831-835
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 橋本努	4. 巻 2020年12月号
2. 論文標題 資本主義の精神とは何か ウェーバー「プロ倫」の読み方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 18-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 橋本努	4. 巻 1142
2. 論文標題 「幸福の経済原理---自生的な善き生(ウェルビーイング)の理論(下)---」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 103-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 橋本努	4. 巻 37
2. 論文標題 リスク認識とイデオロギー 新たな理論と調査結果の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法の理論	6. 最初と最後の頁 25-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tsutomu Hashimoto	4. 巻 20(1)
2. 論文標題 A Theory of Real Freedom: Toward a Growth-oriented Liberalism	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Review of Economic Philosophy (Journal Revue de philosophie economique)	6. 最初と最後の頁 63-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Tsutomu, Kanazawa Yusuke, Tominaga Kyoko	4. 巻 12(5)
2. 論文標題 A New Liberal Class in Japan: Based on Latent Class Analysis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Economic and Social Changes: Facts, Trends, Forecast /	6. 最初と最後の頁 192-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15838/esc.2019.5.65.13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Tsutomu, Oda, Kazumasa; Qi, Yuan	4. 巻 68(1)
2. 論文標題 On Well-being, Sustainability and Wealth Indices beyond GDP : A guide using cross-country comparisons of Japan, China, South Korea	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Economic Studies (Hokkaido University)	6. 最初と最後の頁 35-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hashimoto Tsutomu	4. 巻 60(1)
2. 論文標題 How a Fat Slave Can Make His Soul Noble: Takenori Inoki on Liberty	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The History of Economic Thought	6. 最初と最後の頁 164-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本努	4. 巻 40
2. 論文標題 意味ある仕事の分配論	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 経済社会学会年報	6. 最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本努	4. 巻 1136
2. 論文標題 幸福の経済原理---自生的な善き生(ウェルビーイング)の理論(上)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 6-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本努	4. 巻 1138
2. 論文標題 幸福の経済原理---自生的な善き生(ウェルビーイング)の理論(中)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 88-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件(うち招待講演 0件/うち国際学会 2件)

1. 発表者名 田中拓道、寺尾範野、田中将人、斉藤尚、橋本努
2. 発表標題 セッション：福祉国家の思想史：橋本努『自由原理 来るべき福祉国家の理念』を読む
3. 学会等名 社会思想史学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎聡、永嶋信二郎、若森みどり、斉藤尚、小峯敦、橋本努、西澤保
2. 発表標題 セッション「福祉国家の思想史」
3. 学会等名 経済学史学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小田和正、鈴木康治、橋本努
2. 発表標題 セッション：ロスト近代の消費文化：道徳と倫理・無印良品・ミニマリズム
3. 学会等名 経済社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本努
2. 発表標題 消費社会はどこへ向かっているのか 欲望消費社会を超えて
3. 学会等名 経済社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hashimoto Tsutomu
2. 発表標題 A Theory of Spontaneous Well-being
3. 学会等名 IVR der Internationalen Vereinigung für Rechts- und Sozialphilosophie (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本努
2. 発表標題 自生的な善き生(Well-being)の理論
3. 学会等名 経済社会学会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hashimoto Tsutomu
2. 発表標題 The Nature of Unintended Consequence in Max Weber 's thesis on Protestant Ethic and the Spirit of Capitalism
3. 学会等名 日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hashimoto Tsutomu, Yusuke Kanazawa, Kyoko, Tominaga
2. 発表標題 How can we articulate Japanese Rising Middle Class?
3. 学会等名 East Asian Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 橋本努	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 ロスと欲望社会	



1. 著者名 橋本 努	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 368
3. 書名 消費ミニマリズムの倫理と脱資本主義の精神	

1. 著者名 橋本 努	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 334
3. 書名 自由原理 来るべき福祉国家の理念	

1. 著者名 那須 耕介、橋本 努	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 264
3. 書名 ナッジ!?	

1. 著者名 那須耕介 / 橋本努 / 吉良貴之 / 瑞慶山広大	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 80
3. 書名 ナッジ！ したいですか？ されたいですか？ される側の感情、する側の勘定	

1. 著者名 橋本努	4. 発行年 2019年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 317
3. 書名 解説ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<a href="https://sites.google.com/view/hashimoto-tsutomu/">https://sites.google.com/view/hashimoto-tsutomu/</a> <a href="https://www.socialactiontank.com/">https://www.socialactiontank.com/</a> <a href="https://synodos.jp/">https://synodos.jp/</a>
---

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------